

事業概要書

事業名	奥能登地方のインクルーシブな復興を実現するための QOL 向上事業				
開始日	2025 年 10 月 1 日	終了日	2026 年 9 月 30 日	日数	365 日
団体名	任意団体 のとささえーる				
(カウンターパート)	すず椿、珠洲ささえ愛センター、もんぜん楓の家				
担当者名	藪下佳代	事務局スタッフ人数	3 人		

事業費総額 (税込)	2,028,393 円
CF 事業枠	2,000,000 円
その他資金	28,393 円

事業目的	障がいがあっても、高齢になっても、住み慣れた場所で適切な医療にアクセスでき安心して暮らせる環境を目指し、訪問歯科診療を通じ各種機関との連携強化を図ることで地域全体のレジリエンスを高め、QOL の向上をはかる。また、自らも被災者でありながらも支援者として従事する住民を対象としたメンタルケアサポート事業により、「ひとのこころの復興」への推進力を高める。
事業全体の概要	●任意団体のとささえーるとは のとささえーるは、金沢市内で共同生活援助・短期入所グループホーム「ハートの家」が、能登半島地震の復興、そして被災した障がい者を支援するために設立。 <キャッチコピー> ・のとを支える！ ・のとにエールを送る！ ・必要なときに必要なことをささっと支援！ 2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震では、いち早く避難所生活が難しい障がい者とその家族の受け入れを表明。その結果、SNS でたくさんの方にシェアされ、障がい福祉に関わる支援者を中心に多くの問い合わせをいただき、電話での問い合わせ、一時預かりなど、その時のニーズに合わせ障がい者を対象に支援を開始。 3 月にはグループホームハートの家にて被災者を受け入れ、現在も落ち着いた生活を送っている。4 月より仮設住宅の整備も進み、避難から生活を立て直すフェーズに入ったことから、珠洲市社会福祉協議会、珠洲市社会福祉法人すず椿、一般社団法人BIG UP 石巻他地元団体とも連携し、定期的な現地視察と専門職チームを結成。7 月より認知症グループホームもんぜん楓の家、8 月から仮設住宅と障がい者施設すず椿の訪問活動を展開。障がい者を含めた被災者の孤立化自殺防止に継続的に取り組み、必要な物資の提供も引き続き実施している。 これらの活動を通じ、1 人暮らしが困難とみなした障がい者については、ハートのかの協力を得て受け入れ、今後の生活について支援。当団体は専門職の支援者もいることから、福祉的な観点を持つ質の高い支援を実現することが可能であり、そのための支援体制を整えている。また、孤立化防止を目的に、仮設住宅、珠洲市障がい者施設での話しやすい人間関係作りなど、継続的に活動している。 ●取り組むべき課題 高齢者の口腔ケアは、死因上位のリスクでもある誤嚥性肺炎予防、唾液減少によってリスクが高いむし歯・歯周病予防や咀嚼機能維持、認知症予防、口臭予防、全身疾患（糖尿病・心疾患）予防など、健康寿命を延ばし、生活の質（QOL）を維持・向上させるために不可欠と言われている。歯磨きや歯間ブラシ、口腔体操などが重要で、介護負担軽減にも繋がる重要なケアである。2024

年から 2025 年にかけて、奥能登で深刻化する歯科過疎問題の改善を目指して訪問歯科診療を実施し、そのニーズの高さと対応の必要性を数値という形で可視化してきた。この活動を通じ、県歯科医師会や地域の歯科医院などとの情報交換や連携を深めるための体制が構築された。しかし未だ歯科医院が不足している実態に変わりはなく、この実情を地域外にも発信し課題解決のためのアイデアを求め協力してくれる歯科医を探すことは、いつでも医療にアクセスできるという安心感を与えることに繋がり、地域全体のレジリエンスを高める意味でも重要である。そこで本事業では訪問歯科診療を継続しさらなるデータを集め、関係機関との情報共有や連携を深めながら、関係各所への働きかけを続けていく計画である。

さらに、現在、障がい者施設すず樺、もんぜん楓の家に訪問し、歯科医とともに口腔チェック、歯科相談、ケアの指導、必要あれば近隣の歯科医を紹介しているが、珠洲市においては総合病院も予約が 2 週間以上かかり、車で 30 分以上かかる歯科医に行くなどしている。車が運転できない高齢者、障がい者においては、月に 1 回でも定期的に訪問してくれる歯科医がいるだけで、とても安心感があり、最近では義歯の相談が増えている。

歯科医の生活支援の範囲内で、義歯を削るなど応急処置をして対応している。これがなかなか好評で、しっかり噛めるようになった。入れ歯がひっきり口内炎ができていたが解消した。などの感想をいただいている。

本来ならば、地域の歯科医を勧めるのであるが、予約も困難であるため、なかなかそれも言いにくい現状がある。このような環境下で住民の QOL を維持するためにも、治療が可能な医療機関との「間」を埋めるような存在が求められている。

また、震災後に入って来た地域外の支援団体も国内で多発する災害によって他の被災地へと移っていく中、最後は地域住民の力で復興を推し進めていくことになる。そのための原動力となるはずの人々は、自らも被災者でありながら支援者として支援に当たり続けてきたことで、非常に疲弊している状況である。高齢化が進み現役世代は大変貴重な存在だが、行政職員やエッセンシャルワーカーの中にはバーンアウトしてしまったり、仕事を辞めたいと思うようになるなど、精神的なダメージが蓄積し離脱の危機が続いている。狭い地域の中で被災の程度の違いによる住民同士の溝も少なからず存在するなかで、人間関係などにも細心の注意を払いながら業務に従事しなければならないなど、奥能登ならではの課題も大きい。復興の礎となるはずの地元支援者の負担は限界に達しており、早急なケアが求められている。

●パートナー協働プログラム対象事業

○コンポーネント①口腔ヘルスケアを通じた QOL 向上サポート事業

1) 訪問型口腔ヘルスケアを通じた地域住民の QOL 向上と生活支援

・訪問歯科診療を継続することで、医療へのアクセスがよくなれば医療過疎地の障がい者や高齢者の QOL が向上するというを示すための症例を集める。

・訪問歯科診療の対象者は、障がい者施設や高齢者福祉施設の利用者・入居者。

・診療を行う他、診療を行うため歯科医師と患者の信頼関係構築のためのレクリエーションやハンドマッサージなどを行う。

・歯科通院が難しい高齢者や障がい者を対象に、義歯調整などの応急対応を行う。

・県歯科医師会を始め地域の歯科医院や過疎地域での歯科診療に関心のある歯科医などとの情報交換を行うなど連携体制をさらに強化し、奥能登での歯科診療の環境改善を訴えていく。

2) 「非医療的ケア」を取り入れた口腔トラブルの早期発見・早期治療プログラム

・障がい者施設すず樺、もんぜん楓の家に訪問し、歯科医とともに口腔チェック、歯科相談、ケアの指導のほか、必要があれば近隣の歯科医を紹介する。

- ・口腔トラブルを早期発見し、必要な応急処置を行い歯科医につなぐことで、早期治療を可能とする。
- ・口腔環境を整えることで咀嚼や嚥下機能を維持・向上させ、QOL 向上にもつなげる。
- ・通院が難しい障がい者や高齢者の口腔環境の実情をデータにし可視化する。

○コンポーネント②被災者であり支援者である地域住民へのメンタルヘルスケアプログラム

- ・行政職員やエッセンシャルワーカーなど、自分よりも地域住民や利用者を優先しなければならない支援者たちを対象にアウトリーチ活動を実施する。
- ・職場の人や家族には話せないような悩みも第三者になら話せることがある。日常のしがらみに縛られない相手に心の内を吐露できるような環境・場所を提供する。
- ・災害支援看護師として被災地で多くの被災者、被災者でありながら支援者として従事するひとたちをサポートしてきた講師を招き、メンタルヘルスケアの研修会を実施。そのノウハウを学び今後の活動に活かすため、当団体スタッフ向けの研修も行う。

●期待される効果

コンポーネント①

1. 医療アクセスの改善による 住民の QOL 向上

- 訪問歯科診療によって「歯医者に行けない」→「来てもらえる」 に変わり、高齢者・障がい者が持つ口腔トラブルの早期発見・早期治療が可能になる。
- 嚥下機能や食事量の改善、感染症リスクの低下、生活の質の向上が期待できる。

2. 奥能登の「歯科過疎」の実態を見える化

- 診療データを継続的に集めることで、必要な診療件数、患者の状況、未受診の背景などを数値として示すことができ、行政や専門機関への説得力が高まる。

3. 歯科医師会や地域医院との連携強化

- 同じ目標（奥能登の医療格差改善）を共有することで、地域内外の歯科医の協力を得られる体制が少しずつ整う。
- 長期的には、常設の訪問歯科チームの形成や、地域に歯科医院を誘致するための基盤づくりにつながる。

4. 患者との信頼関係構築

- レクリエーションやハンドマッサージといった非医療的アプローチは、
①医療不信の軽減 ②癒しや安心感の提供 ③認知症・障がいのある方の受診抵抗の緩和、といった心理的な効果も期待できる。

コンポーネント②

1. 支援者の離脱を防ぎ、地域の復興力を維持できる

- 行政職員・介護職・医療職・社会福祉協議会・ボランティアなど、地域の復興を支えてきた人材はすでに疲弊し、バーンアウトの危機にある。
- 第三者によるアウトリーチ相談・ケアは、精神的負担の軽減・離職防止・復職支援に大きく寄与する。

2. 支援者が「語れる場」を持つことでストレスを適切に解消できる

- 地域特有のしがらみ（親戚・近所・職場の密接な関係）から、身近な人には話せない悩みを抱え込みやすい。
- 外部のケアスタッフが傾聴し、感情を安全に吐き出す場を作ることで、メンタル不調の予防、孤立感の軽減、人間関係の調整力向上といった効果が得られる。

	3. 団体内に「災害メンタルヘルスの専門性」が蓄積される ● 災害看護師による研修を受けることで、のどささえ一のスタッフが専門的なメンタルケアを実施できるようになる。 ● これは、今後の災害時にも活かせる「地域に残る知識資産」となる。 4. 地域コミュニティの分断を防ぐ ● 被災度の違いによる住民間の溝、支援疲れ、役割の偏りなどが原因で、コミュニティが崩壊するリスクがある。 ● 早期のメンタルケアは、対立の緩和・信頼関係の再構築・協働意識の回復につながり、復興の足並みを整える。
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
コンポーネント①口腔ヘルスケアを通じた QOL 向上サポート事業 1) 訪問型口腔ヘルスケアを通じた地域住民の QOL 向上と生活支援 ・訪問歯科診療の実施 (月 1 回、2~3 日間) <対象>仮設住宅の高齢者、障がい者、障がいがあると思われる方 <対象エリア>珠洲市仮設住宅、珠洲市障がい者施設 (すず椿)、輪島市門前もんぜん楓の家 <実施内容>毎月定期的に珠洲市仮設住宅 (現在訪問中、蛸島、宝立、若山、 いずれも、珠洲ささえ愛センターの依頼に応じて対応) ・信頼関係構築のためのレクリエーション・ハンドマッサージの実施 (月 1 回) ※訪問歯科診療時に実施 ・関係機関との連携体制構築及び強化のための意見交換会等の実施 (年 2 回) 2) 「非医療的ケア」を取り入れた口腔トラブルの早期発見・早期治療プログラム ・訪問口腔チェックの実施 (月 1 回) <対象>仮設住宅の高齢者、障がい者、障がいがあると思われる方 <対象エリア>珠洲市仮設住宅、珠洲市障がい者施設 (すず椿)、輪島市門前もんぜん楓の家 <実施内容>毎月定期的に珠洲市仮設住宅 (現在訪問中、蛸島、宝立、若山、 いずれも、珠洲ささえ愛センターの依頼に応じて対応)	【直接的裨益者】 訪問歯科診療を受ける珠洲市の障がい者・高齢者 20 人 【間接的裨益者】 珠洲市内の障がい者・高齢者とその家族、歯科や介護関係者 50 人
コンポーネント②被災者であり支援者である地域住民へのメンタルヘルスケアプログラム ・支援者へのケアプログラムの実施 (アウトリーチ活動、悩み相談の場の提供) ・災害看護師を講師に迎え、メンタルヘルスケア研修の実施 <対象者>行政職員、エッセンシャルワーカー、社協職員、団体スタッフなど	【直接裨益者】 地元支援者 延べ 200 人 【間接裨益者】 地域住民 5,000 人